

## 2018 年度第二回関東学連臨時総会

日時 7/22(日) 11:00～

場所 早稲田大学

文責 河野貴大(東工)

幹事長 まずはロングセレクションが中止となった経緯から説明する。7/21(土)の正午ごろに運営から猛暑のためセレクションを中止の可能性があると連絡がきた。この連絡を受け幹事会はセレクションを開催すべきとして関門(強制的に止める)を設けたうえで開催することを提案した。しかし提案時点から関門を設けることを呼びかけ、準備することは時間的に厳しいとして却下された。関東学連ではロングセレクションが中止となった際のエリートクラス出走選手を選考する方法を前回総会にて検討したが、加盟校が多いことなどから別日に開催することは難しく、ほかの案も上がらなかったため結論には至らなかった。よって今から早急に選考方法を検討しなければならない。具体的にはセレクションが行われエリートクラス出走選手をインカレ運営に伝えるはずであった 8/3(金)までに選考することが望ましい。  
各大学で選考方法についての意見を提案してほしい。

茨城 来週 29 日に代替レースを行うのが理想。北東インカレに併設できないだろうか。代替レースができない場合は大学ごとに枠を振るのがよいと思う。具体的には学連加盟者数に応じて枠を振るか公認大会等の記録を参考にするべきではないだろうか。また代替レースとしてモデルイベントを活用することも考えられる。

筑波 代替レースを北東インカレに併設するのがよい。また全日本大会を参考に選考するか E 権保有者を通過者とするのがよいのではないだろうか。今年度の大会を参考にするのはやめたほうが良いと思う。学生運営の大会が多く、参加者を考えるに参考にはならないだろう。

幹事長 代替レースを行わず選考する場合、第三者委員会を設置するのは 1 つの案である

横国 代替レースとして北東インカレに併設するか別日にレースを行うのが望ましい。またインカレや全日本大会の成績で選考してもよいと思う。過去の大会で学生大会は参考にするべきでない。学生運営では質が担保されず、また運営団体が参加し

ていないので参考にはならない。

千葉 過去の大会を参考にすべきでない。セレクションは今の実力を測るものであり、過去の大会を参考にすることはセレクションの意図の反する。なんとしても別日で代替レースやるべき。別日で行えない場合は枠を割り振ることを提案する。割り振りは資料1(議事録末尾)の通りに提案する。

法政 ユニバー選手の選考はどうなるのか。経験の少ない下級生はどうするのか。特に経験者の1年生はどうするのか。

東大 加盟大学ごとにランキングを作り、それを持ち寄り選考する。  
第三者が各大学のランキングの一番上の人を見比べ一番の人を選出、選出された大学は次点の人とほかの大学の1番の人を見比べ同様に選出する。これを繰り返すことによって選考する。

立教 別日に代替レースをやるのが理想。北東インカレやその他8月のレースに併設することはできないのか。  
実績によって選考するならばインカレロングだけの実績でなくインカレミドルなどの成績も考慮すべき。

横市 仮に北東インカレに併設できたとしても日程的に急であるため枠のすべてを決めるべきでない  
また今回猛暑で中止の判断となったが北東インカレなども中止となる可能性がある。中止の時の対策を立てないまま代替レースは行えない。

慶応 代替レースを行うべきだが日程的に厳しい。通過者を選考する際、過去の大会を参考に選考するのであれば、どの大会を参考にしたかを透明化しなければならない。

幹事長 意見を鑑みるに以下の3つの案にまとめられると思う。

①代替レースを行う

②過去のレースを踏まえ枠全員を選考する

③セレクション通過者の枠を何らかを参考にして大学ごとに割り振る

3つの案について仮に行うとしたらどのように行うかを考えたい。

(以下テーマに対して出た意見を箇条書きで書く。「-」を発言とする。)

### ①代替レースを行う

―北東インカレ 8/12、インハイ 8/25-26、モデルイベント 9/14

上記のレースなどに併設することが望ましい。

―複数のレースをセレクションとし参加者を増やす。

―参加人数を何らかの方法で絞らないと急な運営は厳しい。

―複数日開催し、そのうちから 1 日選択し走ればほとんどの人がセレクションに参加できる。

―同じトレイン、同じコースで団体ごとに日にちを分けて走ってもらう。

―かつてのセレクションやインハイの選考など複数レースを参考にして行う選考を踏まえて代替レースを開催する。

―8月に行ったとしても再び猛暑で中止となる可能性はある。今から新しく行うのは運営が不可能ではないか。

### ②過去のレースを踏まえ枠全員を選考する

―インハイ、ミセレ、東大大会、インカレ、全日本大会、関西インカレ、東海インカレ、KOLC 大会、代表選考会、東工大大会、昨年度ロングセレなどを参考にする。

―最上位クラス(E,A)の成績を参考にする。

―時期を絞って選考対象とするレースを選ぶべき。

―参加者数やトレインも参考にしてポイントを割り振る必要がある。

―大会の質を評価しなければならない。

―ポイントをどのように割り振るのか決めることが多い。

―仮に行うとしたら第三者委員会に任せるのがよい。

―第三者委員会として考えられるのは今回の実行委員会(OB)、JOA、セレクション免除者。

―セレクション免除者は選考対象者と大きくかかわっているため避けるべき。

### ③セレクション通過者の枠を何らかを参考にして大学ごとに割り振る

―昨年のインカレロングを参考に枠を与えるべき。

―セレクション免除者の扱いはどうなるのか。

―昨年 2、3 年だった人が今年の選考対象であるため、昨年度 4 年生は省くべきである。

―ある程度を割り振ったうえで残りの枠を代替レースで決めるのはどうか。

―2 年生が選考対象となるので昨年度の F クラスも考慮するべき。

―過去のレースを参考にした方法でのみの選考にするべきでない。

―決められた枠数を過去の大会を参考にドント式で大学に割り振る。

また 3 つの案の方法を考える中、通過枠数が大きく違うことから男子と女子で選考方法を変えるべきであるという案が出た。そこで男子と女子で方法の違いを検討した。

## 男子

- 代替レースを用いるのが理想。
- 実績枠などは小規模の大学に不利となるので設けるべきでない。また実績枠で通過する選手はどのような方法をとっても通過できる。
- 過去の大会はセレクションとは気合の入り方が違うため参考にするべきでない。
- 同じコースを走るのが理想であり、複数日開催で地図管理を運営に任せるのはどうか。
- 代替レースは4日ぐらい開くのが理想である。
- 違うコースを走る場合は最上位層に走ってもらい上位比を出すことでコース格差を減らせる。
- 枠を配分するならばクラブに枠を振ってからクラブごとに決めるのがよいと思う。
- 大学ごとはOLKに加盟している人数の少ない大学に不利になる。
- 直近のレースで実力のわかるスプセレの各上位30名の構成比で枠を振るのはどうか。
- 運営をほかに投げるべきでないため代替レースはすべきでない。
- 枠の配分を行うならば加盟人数や千葉大案を参考にするべきだと思うが、昨年度4年生や通過確定者は今年度セレクション対象でないことから除いて考えるべき。
- ボーダー付近を決めるのに時間がかかるため、ボーダー付近のみでセレクションをおこなえば少人数で運営の負担も減るのではないか。
- たとえば各大学ランキングをもとにある程度を決め、ボーダー付近をレースで決めるのはどうか。

## 女子

- 女子は枠が少ないためインカレ前に代替レースをおこなえると思う。
- 代替レースをおこなえない場合は枠を振るのが現実的である。
- 過去のレースを用い選考するとしても8月にレースを行い参考にするべき。
- 女子の最善案はレースであり、他は9人という人数を踏まえるとどれも同じ。

代替レースを行うのが理想であるという意見から代替レースを行うことは可能か、各大学の日程の確認を行った。

OLK	8/1 夏場所
	3~6 夏合宿
KOLC	4~6 合宿
東工	9 までテスト
OC	8/11,12 OC 夏練
茨城	8 までテスト

筑波 8までテスト

千葉 2までテスト

農工 特になし

エリート選出を北東に合わせるとしても8/12が期限となる。

各大学の予定を鑑みるに代替レースを行うならば8/10~12になるが、いまからその日程で代替レースを開くことは涉外、コース作成を含めた運営の準備、参加者の募集などから不可能である。また元幹事長瀬川さんの話によると、「北東インカレ運営に問い合わせたところ、コースはすでに確定しており関東のセレクションを併設できる保証はない」とのことであった。さらに猛暑による中止の際に再び選考方法を議論し決めている時間はない。以上から代替レースを行うのは現実的でない。

次に過去の大会を参考にして枠すべてを選考することは時間がかかりすぎる。どの大会を参考にするか、実際の選考方法はどうするのかを決めることに多く時間を費やすことになり、なるだけ早く選考すべき現状に合っていない。よって枠すべてを選考することも難しい。

以上から枠を大学ごとに配分するのがベターであると考える。

上記の理由から枠の配分方法を考える。

- ①スプリントセレの30位以上を参考にする
- ②千葉大案(資料1)を修正する

—①でスプリントセレを用いる理由は直近のレースで現在の実力が反映されている、かつ多くの選手が参加し同一のコースを走っているためである。またロングセレに通過する人はスプリントセレでもある程度上位にはいると考えられる。ロングセレで上位に入ると予想される人数を大学ごとに出し、それに応じて枠を割り振る。

—ロングセレクション免除者は選考対象ではないため枠を振る考慮に入れるべきではない。

—スプリントセレクション通過者は走っていないため枠を振る際に追加で考える。

—スプリント通過基準の2倍の28位がわかりやすく、今後同様の事例が起こった際に対応しやすい。またスプリント通過基準の2倍以内に入る人は十分な実力があると考え、その人数を参考にする事で大学の実力を鑑みることができる。

—タイムのトップ比で区切ることも考えられるが、トップのタイムとレーンによって人数が大きく変わるので避けるべき。実際今年のスプリントで考えた場合、仮にトップ比150%以内とするとMs1では40位、Ms2では25位が基準となり大きく差が出る。

—②千葉大の案は実力者が確実に通るため結果をある程度期待できる一方、今後への活用がしにくいこと、加盟校すべてに枠を振るのは加盟人数が少数の大学に有利に働きすぎる事、昨年度のインカレロングを参考にすると現状の実力を測れないことから今回は不適切である。また修正を行うとより複雑になることから修正も不適切であると考える。

一女子の場合スプリントセレは公務員試験などで出ていない人が多いので参考にならない。  
また枠が少ないため割り振ることはやはり難しい。

以上を踏まえたうえで男女ともに微調整を加えたのち、関東学連では以下の方法を選考方法と決定した。

### 【関東学連ロングエリート選出方法】

#### 【男子】

28名	<b>[スプセレ各レーン上位28名(通過者数×2)]</b> <b>+ [スプセレ免除者数] - [ロングセレ免除者]</b> 上記について大学ごとの人数比を出し、 半分にして切り上げでクラブごとの枠数を決定
4名	推薦枠

#### 【女子】

4名	ロングセレ推薦規約の立候補基準の実績保持者 <b>稲垣、木村、立花、村田</b>
5名	推薦枠

大学名	東京	東工	早稲田	慶応	筑波	一橋	横国	茨城	農工	千葉	中央
i スプセレ 28 位以内	16	11	7	7	4	2	3	2	2	1	1
ii スプセレ免除者数	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
iii ロング免除者数	3	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0
i - ii + iii	15	11	6	6	4	2	2	2	2	1	1
枠数	8	6	3	3	2	1	1	1	1	1	1

団体名    OLK    東工    KOLC    OC    筑波    茨城    農工    千葉    合計

枠数        10        6        4        3        2        1        1        1        28

以上のように団体ごとに枠を振る。

男子について 28 人を各大学から選出、残り 4 人を推薦とする。  
書いてある計算方法からロングセレ選考対象者のほとんどを考慮している。  
また切り上げにすることで小規模の大学も考慮している。  
ランキングの提出は推薦の不正を防止するために必須である。  
女子について、枠が少ないため男子と同じような方式で割り振るのは不可能。  
よって推薦規約を満たす 4 名を通過、残りを推薦枠とするのが現状を考慮した最良の方法  
であると考えます。  
推薦での選考は男女ともに第三者委員会に一任する。

各大学がすること

- ・ 割り振られた枠分+推薦を出す人数のクラブ内の速い順名簿を提出
- ・ 推薦書類の提出
- ・ 推薦は現段階で枠が取れそうな人のみに限る

また枠の返上分は推薦枠に追加

7/26(木)までに幹事長にランキング提出

7/27(金)に関東学連で公開

7/28(土)に第三者委員会で判断

以上

7/23(月)に、ロングセレの推薦規約を満たしているとした木村(立教4)選手が推薦規約を満たしていないことが判明しました。このことをうけ推薦規約を満たす3名を通過、残り6枠を推薦枠とします。誤解を招いてしまったことに対し深くお詫びいたします。

## 資料1 千葉大学提案 枠の振り分け案

### ロングセレ代替案の提案

#### 1-1 議論の前提として…

・限られた時間で決められる方法であるという現実性があるかどうか(7/28の総会が締め切り?)

→いかにして自己推薦にかかる労力を小さくするか。自己推薦はなるべく避けるべきである。やるとしても最終手段。

・何を根拠に話し合いをするべきか。やはり、規約であると思う。規約を全面的にそのまま使うことは難しいが、意図を汲み取ってなるべく趣旨から反さないようにするのが望ましいと思われる。

#### 1-2 議論の方向性

①自己推薦を避ける。理由は以下である。

- ・推薦が殺到し、処理しきれなくなる可能性が高い。
- ・最終的に関学総会で多数決によって決めるのならば、インカレサークルが有利となる可能性がある。ただし、これは投票の仕方にもよる。

②インカレエリートの選手層を分析して、それぞれの層が程よく拾えているかを検討していく。ここでいう選手層とは次の三つ程度に分けられると考える。

- a.インカレ入賞相当
- b.次年度関学枠獲得相当
- c.インカレ出場相当

③男子と女子では人数規模、大学ごとのレベルの偏りが異なるため、個別に検討する必要がある。

#### 2-1 選出方法の案

男子 32名

① セレクション免除枠

- 伊藤樹(横浜国立4)
- 稲森剛(横浜国立4)
- 上島浩平(慶應義塾4)
- 佐藤遼平(東京4)
- 柴沼健(早稲田4)
- 種市雅也(東京3)
- 宮本樹(東京4)

以上7名(残り32名)

1 実績枠(関東学連ロングセレ推薦規約 第8条4を基準とする)

濱宇津佑亮 東京大学 4

横堀聖人 東京大学 4

新田見優輝 東京大学 4

村井智也 東京大学 4

殿垣佳治 東京大学 4

大橋陽樹 東京大学 3

長谷川望 早稲田大学 3

桃井陽佑 慶応義塾大学 2

大田将司 一橋大学 4 以上9名(残り23名)

2 大学枠(各校1名)

男子

東京、一橋、早稲田、東京理科、慶応、横国、横市、関東学院、東工、農工、千葉、筑波、茨城、  
電通、群馬、中央

計16校?(残り7名?)

3 前年度枠→前年度のインカレ選手権の部出場者を分母として、各大学の出場者を分子として比で分配する。人数の小数点以下は四捨五入する。(詳細は別ファイル参照)

東京3、早稲田1、東京工業1、横国1

計6名(残り1名)

↑若干校で②において棄権が出る?

4 自己推薦

若干名

女子 9名

① セレクション免除枠

勝山佳恵(茨城4)

増澤すず(筑波3)

宮本和奏(筑波2)

山岸夏希(筑波4)

以上4名(残り9名)

1 実績枠(関東学連ロングセレ推薦規約 第8条4を基準とする)

稲垣秀奈美 千葉大学 4

村田茉奈美 フェリス女学院大学 4

立花和祈 実践女子大学 4

木村るびこ 立教大学 4

以上 4 名(残り 5 名)

## 2 大学枠なし

東京、立教、十文字、実践、法政、津田塾、早稲田、日本女子、東京理科、慶応、横国、横市、相模女子、東洋、東工、農工、千葉、茨城、筑波、電通、群馬

## 3 前年度枠→前年度のインカレ選手権の部出場者を分母として、各大学の出場者を分子として比で分配する。人数の小数点以下は四捨五入する。(詳細は別ファイル参照)

筑波、千葉、フェリス

以上 3 校(残り 2 名)

## 4 自己推薦枠

若干名

### 2-2 選出方法の妥当性の検討

1-2 議論の方向性に沿って検討する。

「①自己推薦を避ける」について

自己推薦を避ける際の手段としては

ア.個人を指名する

イ.大学に枠を分配する

のいずれかしかない。これらを適宜組み合わせ、自己推薦者を若干名に抑えるしかない。

「②選手層を分けて分析する」について

a.インカレ入賞相当

b.次年度関学枠獲得相当

c.インカレ出場相当

・ a の層は概ね①セレクション免除者において拾われていると思われる。

根拠：セレクション免除者は前年度の大会で入賞しているか、それに相当する実績を持っているためである。

・ b の層は①実績枠で過半数は拾われていると思われる。

根拠：関東学連ロングセレ推薦規約 第 8 条 4 ではインカレで次年度関学枠を獲得しうる選

手の基準を示しているので妥当である。

なお、①実績枠のみでは拾い切れていないと思われるので③前年度枠によって若干名を補填する。

・cの層は男子は②大学枠、③前年度枠で拾う。女子は③前年度枠で拾う。

今まで目立った実績は持たず、今回のセレで実力を発揮しようとしていた選手がこの層に多く該当すると考えられる。彼らの実力を知るのは同じ大学内の方であると考えるので、彼らへの救済措置として各大学のモラルに任せるといふ、少し乱暴な策である。ただ、『「①自己推薦を避ける」について』で述べたように大学枠自体は致し方ない苦肉の策である。

以上より、ある程度ふさわしい選手層が集めると考察する。

「③男女で選出法は異らざるをえない」について

大学枠を設けることの意義は直上で述べた。しかし、女子に関しては、枠に対する加盟校数が多すぎて不可能である。そのため、大学枠は男子にしか適用できない。

### 3-1 問題点

1 どのようにして枠を埋めるか、それとも埋めないか

大学枠の棄権を許す以上、どうしても枠が余ることが起こりうる。その若干名だけ自己推薦とするしかないように思われる。その場合、話し合いによる多数決は不公平であると考え（インカレサークルが有利なため）。多数決でテキトーに決めるのも今回ばかりはやむをえないかもしれないが、機械的に決められる方法を別途検討するか、これは許されるのかはわからないが、枠を全ては埋めないという解決策も考えられる。

2 大学枠選出者が未帰還者とならないか

大学枠選出者が未帰還者とならないように、選手として適切であるかは各大学の判断に委ねるしかない。この点については各大学に十分に周知する必要があると考える。